

ALP アイザイム		359000			
ALP アイ		担当部署			
		一般			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	2				
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8:15~16:00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		早朝空腹時の採血が望ましい。 EX 一般 235 「クイック EP BAP-IF 試薬添付文書」			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1 全血	10青	分離剤	8	mL	
2 他材料	10青	分離剤	2	mL	
3					
4					
5					
6					
7					
8					
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1) 採取容器違いの検体 2) バーコードラベルの貼られていない検体 3) 量不足 4) 粘性のある検体			
保管検体の保存期間		2℃から 8℃冷蔵保存 14 日 (追加検査については検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			

測定時間	1～7日					
生物学的基準範囲	ALP1 0.0～5.3% ALP2 29.3～67.9% ALP3 26.9～67.6% ALP5 0.0～18.1% EX 一般 235 「クイック EP BAP-IF 試薬添付文書」					
臨床判断値	該当なし					
基準値					単位	%
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因	小児から思春期まではALP3が優位。 妊娠後期には耐熱性のALP4が出現する。 血液型（B型、O型）の人は、食後にALP5が優位になる。					
臨床的意義	ALPは、腎（近位尿細管）、小腸（粘膜上皮）、骨芽細胞、胎盤、肝（毛細胆管）、乳腺などに比較的高濃度に存在し、細胞膜に局在して、膜を通してのリン酸の転送に関与していると考えられている。血清中本酵素活性の増大は、主として骨疾患（骨形成の旺盛な場合）、肝・胆管疾患（閉塞性黄疸など）、妊娠、悪性腫瘍などにみられる。ALPのアイソザイムを分画し由来臓器の推定が可能となる。 EX 一般 212 「臨床検査法提要改訂第31版：613,1998」					